

伊深 まちづくり協議会 だより

第 38 号

・協議会の動き	1
・地域のトピックス	2
・シールデザインを募集します	3
・名所・旧跡紹介シリーズ (16) 正眼寺	4

伊深まち協 HP アドレス <http://ibukamachi.com>

※6月1日号はつごうにより休刊しました。

協議会の動き 小林会長を再任、新たな計画も加わり 28 年度活動が本格スタート

4月の定例会では H27 年度の会計報告を承認したほか、H28 年度の役員体制、基本理念、活動計画・予算案などについて協議・決定しました。

役員体制では小林会長が再任、福田（範）副会長、福田（美）副会長が新任となったほか、6名の委員が交代され、新体制で H28 年度の活動をスタートしました。

今後一年間ご協力をよろしくお願ひします。

■ H27 年度決算

- 収入： 前期繰越金 170、市助成金 220、市みんなのまる活動交付金 189、文化振興助成 86、販売代金 20、参加料他 7 計 692 千円
- 支出： 会議費 12、広報関連 52、みんなのまる活動費 189、グループ活動費 120、追加活動費 134 計 506 千円、差引 186 千円を次年度へ繰り越しとしました。

5～6月の定例会では、各活動ごとの年間計画を承認し、これに基づく予算も承認したほか、当面の活動計画について具体化のための検討を行いました。

■ H28 年度予算

- 収入： 前期繰越金 186、市助成金 220、市みんなのまる活動交付金 300、販売代金 15、参加料他 50、計 771 千円
- 支出： 会議費 30、広報関連 50、みんなのまる活動費 300、事業費 340、予備費 51、計 771 千円とし、このなかでは活動の範囲が拡大したことにより事業費の伸びが目立っています。

当面の活動について

- お月見会について： 昨年的好评を受け、

今年度も 9/19 に実施する予定で具体化する。
○シール作成について： 伊深の良さをアピールするためのツールとして作成し、基本デザインを広く公募する。

○「川遊び」について： 昨年実施した「外遊びプロジェクト」の第2弾として夏に実施する予定で具体化する。

■平成 28 年度委員名簿 (網掛けは新委員)

役職	氏名	所属 (G:活動グループ代表)
会長	小林 喜典	H23 自治会長会会長、コミュニティ建設 WG
副会長	福田 範和	H27 自治会長会会長、社協伊深支部長
同	福田 美津枝	生涯学習審議会委員、親子文庫代表、標柱 G・絵葉書 G
会計	亀井 洋志	民生児童委員代表
広報委員	大矢 伸司	農業委員、里山 G・保育園畑支援 G
同	渡辺 葉子	選任
監査委員	大矢 隆	H28 自治会長会会長
同	三厨 健次	H28 自治会長会副会長
委員	平田 芳昭	H26 自治会長会会長、伊深視聴覚代表、伊深青少年育成会代表
同	福井 晃	H27 自治会長会副会長
同	堀田 基城	伊深体育振興会長
同	河村 義信	交通安全伊深分会長
同	西城 敏幸	消防第6分団副分団長
同	河村 一彦	市災害協力隊伊深支部長
同	森 和博	伊深小学校 PTA 会長
同	久保田 浩由	ほくぶ保育園保護者会長
同	遠山 くぎ	伊深あじさい会代表
同	井上 美恵子	美化 G、れんげ会代表
同	篠田 洋	小学校稲作体験支援 G

以上 19 名

事務局	村井 泰史	伊深連絡所長
-----	-------	--------



地域の トピックス

地域内での最近のトピックスを紹介します

6.12 市の消防操法大会・競練会で成果を披露

—残念ながら上位入賞はならず—

今年度の市操法大会に臨んだ第6分団は「ポンプ車操法の部」で3位に入り、「小型ポンプ操法の部」指揮者も個人賞を獲得したものの、「小型ポンプ操法の部」「総合の部」では残念ながら上位入賞を果たすことができませんでした。

一方、より実践的な内容で競う「競練会」では3位入賞となり、全体的には一定の成果を発揮することができました。団員の皆さんはお疲れさまでした。



6.17 ほくぶ保育園児が自然探検遊び

—山登りや竹遊びを思いっきり楽しむ—

今年度も春の里山をフィールドにほくぶ保育園の「自然探検遊び」が始まっています。今年2回目となる今回は5月に伸び始めた「たけのこ」がいっそう伸び、ほぼ「竹」になりかかっていますが、みんなで力を合わせて倒したり、ヤブの中で宝物を探したりと普段ではできない遊びを楽しんでいました。年長組はズボンが汚れるのも気にせず伊深沖が望めるところまで山登りを楽しんでいました。今回は現地での給食も用意されたため、青空のもとみんなでおしゃべりをしながらおいしい給食をほおぼっていました。



6.19 伊深小児童が「母と子絆コンサート」でオリジナル曲を合唱

—庄野真代さんと—

4月から「歌声づくり」に取り組んできた伊深小児童が、市文化会館で開かれた「母と子絆コンサート」でその成果を披露しました。全校合唱として、『咲かせよう笑顔の花を』を発表したほか、「飛んでイスタンブール」の庄野真代さんと一緒に合唱したり、客席の皆さんと一緒に『ふるさと』を歌ったりして大きな感動を届けることができました。参加者から感謝の言葉をかけられた児童らにとって今回の取り組みはとても貴重な体験になったようです。



伊深のイメージをアピールするための

シールデザインを募集します

このたび、まち協では、「自然豊かで、住みよいまち伊深」への愛着や魅力などを広くアピールするために、誰もが使いやすいシールを作ることになりました。そこで、そのシールのデザイン（案）を、地域の皆さんから募集します。小・中・高校生をはじめ、多くの皆さんからの応募をお待ちしています。

募集方法

- 期 間 8月31日まで
- 対 象 伊深住民をはじめどなたでも。
- 応募規定
- ・伊深のイメージを充分反映しているものとします。
 - ・『『いぶか』』という文字」と「図案」を必ず入れてください。
漢字、ひらがな、カタカナ、英文字などで
- 申 込
- ・応募用紙に必要事項を記入し、FAX、郵送、直接、メールなどで、下記へ提出してください。
〒505-0008 伊深町 909 伊深交流センター内「まち協事務局」
TEL 0574-29-1395 FAX 0574-29-0001
メールアドレス yasufumi.murai@city.minokamo.lg.jp
 - ・応募用紙は伊深交流センターにあるほか、まち協HPからダウンロードできます。

審査方法

- ・まち協役員、市職員、専門アドバイザーなどによる審査により優秀作品を決定します。
- ・応募作品に係わる一切の権利は「伊深まちづくり協議会」に帰属し、作品は返却しません。
- ・個人情報については、審査の目的のみに使用し、その他には一切使用しません。

表彰 賞 品

- ・11月6日 伊深町文化祭の会場で発表し、表彰します。
- ・採用作品には図書券を進呈します。

その他

- ・なお、小・中・高生には、参加賞を進呈します。
- ・応募いただくデザインは専門家により修正することがあります。
- ・シールはさまざまな大きさで使用するため、図案+キャッチコピーの組み合わせ方についても専門家により調整することがあります。
- ・シールの活用方法としては、車の後部に貼ってもらったり、持ち物に貼ってもらうことを予定しています。



伊深を外の人に紹介するとき、全国的にも通用するのがこの『正眼寺』で、伊深とは切っても切れない名前です。

正式名を妙法山正眼寺と称し、禅宗の一派である臨済宗妙心寺派の専門道場とも奥の院とも呼ばれています。かつては同派の寺の子弟が全国から大ぜい集まり雲水として修行する厳しい修行の場でしたが、最近は跡継ぎも減ったようで外人の雲水さんも珍しくなくなってきました。

開山とされる「エゲンさん」（関山慧玄）と正眼寺のことについて「エゲンさんが正眼寺を建てた」とか「正眼寺へ修行に来ていた」などと誤解しておられる人がときどきおられますが、「エゲンさん」が悟後の修行を行うためにこの地を訪れていたのは今からおよそ690年前の約8年間、「エゲンさん」が



無相大師（関山慧玄）坐像
（妙心寺蔵）

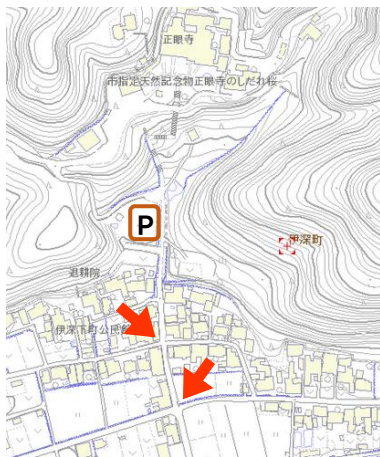
花園法皇から請われて京にのぼるまで毎夜修行した山に大極唯一禅師が初祖山円成寺（のち妙法山正眼寺）を開かれたのはそれより330年も後のことであり、仏教界で師への尊崇の念をこめて実際の創始者でなく師を開山とする「勧請開山（かんじょうかいさん）」と呼ばれる扱いが前述のような誤解を生む遠因ともなったようです。

伊深では気軽に用事を頼めるほど親しまれた「エゲンさん」ですが、仏教界では「没蹤跡（もっしょうせき）」、つまり語録や著書などの足跡をいっさい残さない生き方を貫いた禅僧として知られているそうです。

正眼寺の「開山忌」といえば、かつては小学校も昼から休みとなり、近隣から多くの参拝者が集まったものですが、今は開山さまの法事らしい静かな行事となったのは少しさみしい気もします。

この正眼寺は前述のとおり「修行」が目的の寺であるため、参拝の際には静かにお詣りください。参道西の駐車場に車を止めて階段を登るか、正眼短大側からこられた場合は本堂西側の車止めに止めて静かにお詣りください。拝観料は不要です。本堂前には市指定天然記念物のシダレザクラ（ヤマザクラ）があります。

標柱は市道沿いの寺標の横と、少し北へ入った常夜灯横の2か所に設置してあります。



標柱：2本あり

〔参照記事〕

- 1 中外日報社「正眼寺開山無相大師六百五十年遠諱特集（2005.9.29）」
- 2 玄侑宗久「『没蹤跡』という生き方」（2009.10.24）